

## 球磨川のダムなし治水、立野ダム問題についての質疑 2015.3.4

日本共産党の松岡徹です。2015年度一般会計当初予算の国直轄事業負担金について、質疑を行います。

まず、6億1千180万円余の球磨川の河川改修についての県負担金に関連して伺います

「ダムによらない治水を検討する場」の最終会議で確認された「共通認識」として、「国土交通省および熊本県は、『検討する場』で積み上げた対策について、流域市町村の協力を得ながら、地域の理解が得られたものを着実に実施していく」ことを確認しています。

「検討する場」では、人吉地区の「安全度」がしばしば問題になってきました。「検討する場」では、人吉地区で「直ちに実施する対策」として、「人吉橋下流左岸の掘削・築堤」「堤防の質的強化」があげられています。「追加して実施する対策」として、「遊水地の確保」があげられています。

「下流から上流へ」「安全を確保するための緊急性」「当該自治体の協力」という点で、いよいよ人吉の番だと思えます。

知事はこれまでも、国への要望・提案なども含め、度々、急いでやるべきところから治水対策、安全性の向上に取り組んでいくことを国に求めてこられました。

スピーディに事が進むよう、いろいろな形で国に求めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

次に、立野ダム建設事業です。負担金7億440万円余が計上されています。現在仮排水路工事が進行中で、立野ダム建設により、刻一刻と阿蘇の自然が壊されています。

知事は、12月県議会で私の質問に対して、「放流孔の穴づまりなど様々な意見に対して、国交省に説明責任を果たすよう引き続き求める」と答弁されました。その後、国交省に対して、どうされたのでしょうか。

地元紙社説は、「球磨川流域は全国で初めて国直轄ダム計画を拒み、代替案を選択した。全国が注視するその歴史的試みを、住民の期待を得ながら成就させてほしい」と書いています。全国注視の歴史事業です。ソフト対策を含め、人吉をはじめとする防災治水対策、さらには、五木村の振興策推進に大いにリーダーシップを発揮していただきたいと思えます。

私は12月県議会の質問で、立野ダムの5メートルの3つの穴に流木が詰まるか詰まらないかという問題で、国土交通省の説明文には、1.8ミリメートルの爪ようじを切断した材料を使用した実験で安全を検証したとあること。堰堤業務検討報告書では、ボーリングの穴から地下水が噴出する現象が発生している。万一この部分の塞ぎが不完全な場合には、

直ちに周辺の立野層を巻き込んだ大きな浸透破壊につながると。それで、グラウチング対策も普通以上の対策をやる、それでおおむね安全性を確保できるが、それで不十分だったら、追加工事をやる。

第4期断層調査検討業務報告書では、立野周辺の9つの断層とも第4期断層が分布する、あるいは分布する可能性は否定できないと書いてあることなどをあげて、こうした重要な点が県民に説明されていない。知事が説明責任を求めると言うならば、こういう点もちゃんと明らかにするような説明を求めるべきと強調したわけです。

知事は、「国が説明責任を果たすよう、引き続き要望することが、知事としての役割だ」と述べています。

私は、2月23日、立野ダム工事事務所に行っただけ確認しました。2ヶ月以上も経っているのに何もしていないということでした。

やはり、事務方のメールではなく、県知事名できちんと要請をする。答弁で言われたように「知事としての役割」を果たしていただくよう重ねて求め、るものです。

準備しているということですが、ホームページなどでの一方的な説明ではなく、双方向の説明会、専門家も含めて検証ができるような場を準備すべきだということを指摘し、質疑を終わります。